

チルダ (チルドとも。tilde) とは、ラテン文字の上につくダイアクリティカルマークの一種です。横線が波打った形をしています。

用法

スペイン語やポルトガル語でアルファベットの n や o の上につける形で用いられます。

主に鼻音を表すのに用いられます。

ASCII ならびに ISO/IEC 646 におけるチルダ

ASCII と ISO/IEC 646 国際基準版においては、符号位置 7/14 (0x7E) にチルダがあります。Unicode ならびに ISO/IEC 10646 における文字名は TILDE です。

ASCII ではバックスペースのような制御文字を用いた重ね打ちでダイアクリティカルマークを合成する使い方が (今はともかく、規格の文面からすると当初は) 想定されていたので、7/14 を使ってスペイン語やポルトガル語の表記にチルダを使えた可能性があります。

一般には、プログラミング言語で演算子として使ったり、Unix でホームディレクトリを表したりといった用法の方が馴染み深いでしょう。

JIS X 0201 におけるチルダ

JIS X 0201 にはチルダはありません。

JIS X 0201 の符号位置 7/14 は、(ASCII とは異なり) チルダでなくオーバーライン (文字名 OVERLINE) です。

ただし、実現字形としてはオーバーラインでなくチルダの形を取っても良いことが規格に記載されています。もともと ASCII の 7/14 の定義に「tilde (overline)」と幅があったことに起因します。

Shift JIS は JIS X 0201 を拡張したものであることから、Shift JIS の 0x7E もやはり JIS X 0201 のオーバーラインです。画面表示がチルダ形であることは上記のように問題ありませんが、符号位置の意味としてはオーバーラインになります。

JIS X 0208 におけるチルダ

JIS X 0208 にはチルダはありません。

似た形の記号として 1 区 33 点の波ダッシュ (WAVE DASH) がありますが、これはダイアクリティカルマークではなくダッシュのように用いられる記号であり、取り得る字形がチルダとは異なります。チルダはアルファベットの上につきますが、波ダッシュはそのようなことはなく中央に配置されます。

JIS X 0208 にチルダがないことは、補助規格の JIS X 0212、拡張規格の JIS X 0213 のどちらも波ダッシュとは別にチルダを収録したことから分かります。

JIS X 0213 におけるチルダ

単体のチルダ記号

JIS X 0213 は面区点 1-2-18 にチルダを収録しています。文字名 TILDE です。

これは ASCII と同時に運用する符号化方式、例えば EUC-JIS-2004 では、ASCII の TILDE と重複するため、代替名称の FULLWIDTH TILDE (いわば「全角チルダ」) を用いることができます。

(1 区 33 点の波ダッシュ WAVE DASH を Unicode の FULLWIDTH TILDE に移す実装は誤りで(世間でいう波ダッシュ問題)、FULLWIDTH TILDE は EUC-JIS-2004 における JIS X 0213 のチルダや EUC-JP における JIS X 0212 のチルダが ASCII の 7/14 と重複するため用いるもの)

チルダつきのアルファベット

スペイン語やポルトガル語で用いられる、チルダのついた n, a, o の大文字小文字それぞれが収録されています。

結合文字

面区点 1-11-93 に、合成可能なチルダが収録されています。ただし、JIS X 0213 の実装としてはこの結合文字が実際に合成できることは必須ではなく、基底文字との合成に対応しなくても規格に適合します。